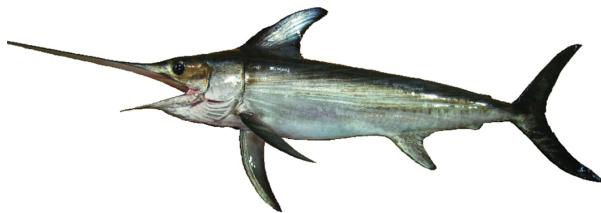


メカジキ 北太平洋

Swordfish, *Xiphias gladius*



管理・関係機関

中西部太平洋まぐろ類委員会 (WCPFC)
全米熱帯まぐろ類委員会 (IATTC)
北太平洋まぐろ類国際科学委員会 (ISC)

生物学的特性

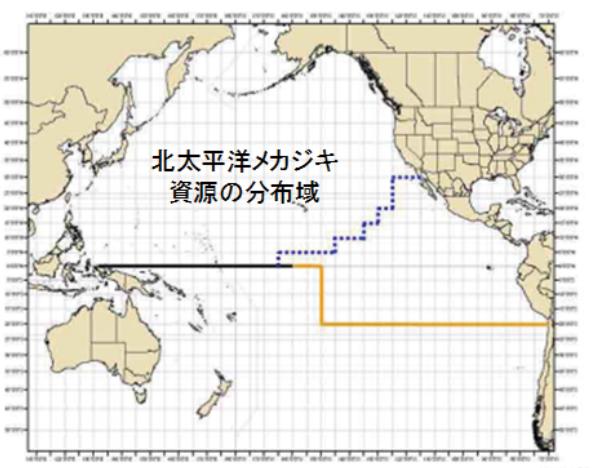
- 体長・体重: 4 m (全長) • 300 kg
- 寿命: 15 歳以上
- 成熟開始年齢: 3 歳
- 産卵期・産卵場: 周年、熱帯・亜熱帯海域
- 索餌期・索餌場: 秋から冬、温帯域
- 食性: 魚類、頭足類
- 捕食者: 調査中

利用・用途

切り身 (ステーキ)、刺身、寿司、煮付け

漁業の特徴

漁獲の半分以上は、本種を主対象に浅く漁具を設置する夜間のはえ縄で漁獲するが、大目流し網、突きん棒、まぐろ類を狙うはえ縄の混獲でも漁獲する。



中西部太平洋系群の分布は黒線で示した赤道以北の海域、東部太平洋系群の分布は黄線で示した海域、両系群の境界線は青い点線で示した。

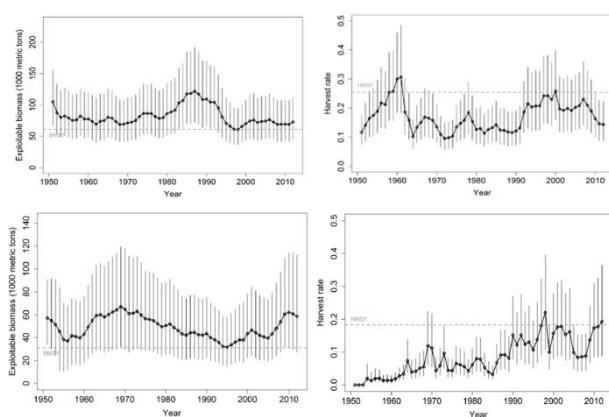
漁獲の動向

ISC に報告された本資源の総漁獲量は、1960 年前後に 2 万トンを上まわったが、その後急激に減少し、1 万トン前後に落ち込んだ。しかし 1980 年代以降米国及び台湾の漁獲量の増加により、全体で 1.5 万トン以上になった。漁獲統計はまだ不十分なので今後更に整備する必要がある。2000 年代に入ると、台湾の漁獲量が増加したものの、米国やメキシコの漁獲量が減少したために、総漁獲量は再び減少し、近年は 1 万トン程度となっており、2016 年は 8,867 トンであった。

我が国の漁獲量は、1980 年代後半までは 0.8 万～1.2 万トンであったが、1994 年以降は一貫して減少傾向にあり、2011 年には 4,460 トンまで減少したが、その後若干増加し、2016 年には 4,885 トン（暫定値）へと回復している。1990 年代以降の漁獲量の減少は、遠洋・近海はえ縄による漁獲の減少によるものである。

資源状態

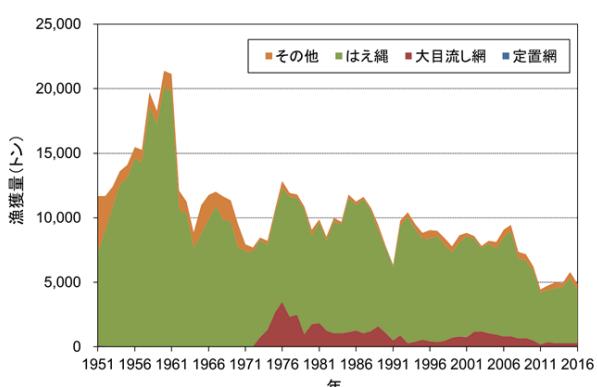
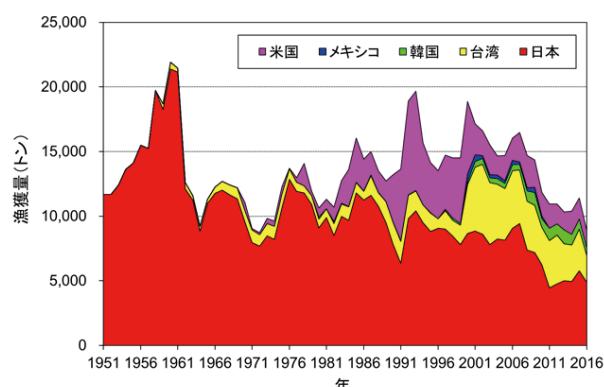
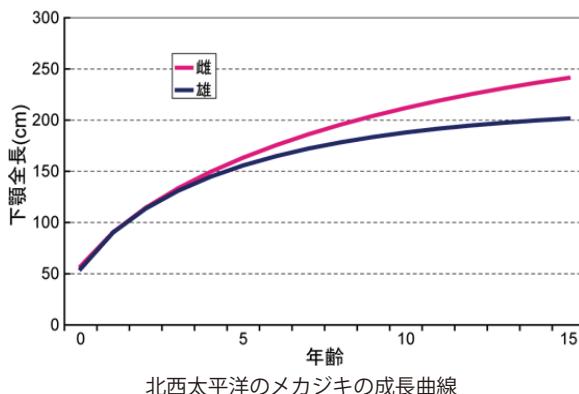
本資源の最新の資源評価は、ISC カジキ類作業部会において 2014 年 2 月にベイジアン・プロダクションモデルを適用して行われた。中西部北太平洋系群については現在の資源量 (B) は 72,500 トンで B_{MSY} (60,720 トン) を上回りて乱獲状態なく、漁獲率 (H) は H_{MSY} を下回つており、漁獲過剰状態ないとされた。東部太平洋北部系群については現在の B は 58,590 トンで B_{MSY} (31,170 トン) を上回り乱獲状態ではないものの、H は H_{MSY} を上回り過剰漁獲に陥りつつあるとされた。これらの結果は同年 7 月の ISC 本会合で承認されたのち、同年 8 月の WCPFC 科学委員会に報告された。次回の資源評価は 2018 年に予定されている。



中西部太平洋系群（上図）と東部太平洋系群（下図）の
プロダクションモデル解析の結果

左図は、開発可能な資源量（黒丸、1951～2012 年）及び最大持続生産量の生産に必要な資源量（点線、 B_{MSY} ）を示す。右図は、漁獲率（黒丸、1951～2012 年）及び最大持続生産量の生産に必要な漁獲率（点線、 H_{MSY} ）を示している。両図とも、エラーバーは 95% 信頼限界を示す。

管理方策
中西部北太平洋系群については、資源状態は健全であるとの ISC の資源評価結果もあり、これまで本資源に関する保存管理措置導入の議論は行われていなかったが、2017 年 8 月の WCPFC 北小委員会において、これまでどおり、本種の保存管理措置について議題に取り上げられたものの、具体的な保存管理措置案が提案されなかつたことから、北小委員会議長より、2018 年の資源評価に基づき、同年の北小委員会において、保存管理措置案と暫定的な管理目標案の提出を期待するとされた。東部太平洋北部系群について、IATTC においても、具体的な保存管理措置についての議論は行われていない。



メカジキ（北太平洋）の資源の現況（要約表）		
	中西部北太平洋系群	東部太平洋系群
資源水準	高位	高位
資源動向	安定	増加
世界の漁獲量 (北太平洋) (最近 5 年間)	8,867 ~ 11,413 トン 最近（2016）年：8,867 トン 平均：10,384 トン（2012 ~ 2016 年）	
我が国の漁獲量 (北太平洋) (最近 5 年間)	4,775 ~ 5,790 トン 最近（2016）年：4,885 トン 平均：5,073 トン（2012 ~ 2016 年）	
管理目標	検討中	検討中
資源評価の方法	Bayesian surplus production model による	Bayesian surplus production model による
資源の状態	現在の資源量は乱獲状態に なく、漁獲も過剰漁獲状態 ではない。	現在の資源量は乱獲状態では ないが、漁獲は過剰漁獲状態に なりつつある。
管理措置	なし	なし
最新の資源評価年	2014 年	2014 年
次回の資源評価年	2018 年	2017 年